

企業理念

MATERIALS INNOVATION

マテリアルを通じて価値を創造し、人間社会(人・社会・環境)に貢献します。

経営方針

JSRグループは、掲げている企業理念を実行するため、2つの軸により経営方針を構成しています。

一つは、持続的成長を続けるための普遍的な経営方針としての「変わらぬ経営の軸」、
もう一つは、社会の一員としての責任を表した「ステークホルダーへの責任」です。

変わらぬ経営の軸

絶え間ない事業創造

絶え間ない大きな社会ニーズの変化に対し、必要なマテリアルも変わり続けます。JSRは今ある事業に留まることはなく、常に新たな事業を創造することで、社会ニーズの実現に貢献し、持続的な成長を達成します。

企業風土の進化

変わり続ける社会ニーズへマテリアルを通じて応え続けるために、人材・組織は常に進化し続けます。自身の良き風土は維持しながらも新しいものを取り入れ、進化するエネルギーに富んだ経営と組織を築き続けます。

企業価値の増大

マテリアルを通じて事業機会を創出し、企業価値の増大を目指します。そのためには、顧客満足度の向上と社員の豊かさの向上を重視し続けます。

ステークホルダーへの責任

顧客・取引先への責任

JSRグループの全顧客・取引先に対する責任です。

- ・ 移り変わる時代の多様な材料ニーズに応えるため、変化への挑戦と進化を絶やしません。
- ・ 顧客満足の持続的な向上を目指します。
- ・ 全ての取引先に誠意をもって接し、常に公正・公平な取引関係を維持し続けます。
- ・ サプライチェーンにおける環境・社会に配慮し続けます。

従業員への責任

JSRグループ全社員に対する責任です。

- ・ 社員一人ひとりには公平な基準に基づき評価されます。
- ・ 社員には常に挑戦する場を提供し続けます。
- ・ 社員にはお互いの人格と多様性を認めあい、共に活躍できる場を提供し続けます。

社会への責任

我々が生活し、働いている地域社会、
更には全世界の人間社会に対する責任です。

- ・ 地域社会の責任ある一員として環境・安全に配慮した事業活動(レスポンシブル・ケア)を行い続けます。
- ・ 地球環境負荷低減を含めた地球環境保全のニーズに対し、環境配慮型製品を提供し続けます。
- ・ 製品ライフサイクル全体から発生する環境負荷の削減に努めるとともに、環境安全配慮を行い続けます。
- ・ 事業活動を通して、生物多様性の保全に積極的に貢献し続けます。

株主への責任

株主全体に対する責任です。

- ・ マテリアルを通じて事業機会を創出し、企業価値の増大を目指します。
- ・ 経営効率の向上を常に行います。
- ・ 透明性が高く健全な企業経営を行うことにより、株主に信頼される企業となります。

価値創造の軌跡

私たちJSRグループは、従来からあるマテリアルと新しいマテリアル、それぞれの可能性を追求しています。化学の潜在力を引き出して新しい価値を創り出し、未来に向けて社会の可能性を少しでも広げるため、挑戦し続けています。次代を切り拓くマテリアルを通じて、新たな価値を顧客や社会に提供し、社会に貢献することを目指しています。

1960s

合成ゴムの国産化に成功

1957年、国策会社として設立。1960年に四日市工場が完成しステレン・ブタジエンゴム(SBR)の国産化に成功。その後、各種合成ゴムを開発・製造し、合成ゴムメーカーとして国内トップとなる。1969年に民間会社に完全移行。

1960s



1970s

深刻な不況に対応

2度の石油ショックで原油価格が高騰。急激な円高と相まって合成ゴムの輸出競争力の低下と需要の伸び悩みで深刻な事態に直面。この状況に対応すべくプラントの省エネ化や生産設備の集約を実施しつつ、事業の多角化戦略を開始。

1970s

JSR創業期

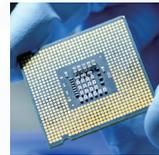
1980s

新規事業の創出

1981年、石油化学系製品の高付加価値化を目指しつつ、石油化学系一辺倒の事業構造を変革すべく電子材料分野へ参入。成長著しい情報電子産業に新たなマテリアルを提供し、ともに成長する体制へ。

1980s

多角化模索期



2000s

ファイン事業の拡大

トップメーカーとの協業によって世界市場で存在感を拡大。半導体材料やディスプレイ材料を中心にファイン事業を拡大し、事業構造を変革。

2000s

事業構造変革期

1990s

グローバル生産体制の構築

市場のボーダーレス化やアジア新興国の攻勢など産業構造が大きく変化する中、一層の成長のため電子材料事業への資源投入を強化。欧州と北米にフォトレジスト工場を建設し、日米欧での生産体制を確立。ディスプレイ材料は日韓台で生産体制を確立。1997年に社名を「日本合成ゴム株式会社」から「JSR株式会社」に変更。

多角化推進期

1990s

成長への始動

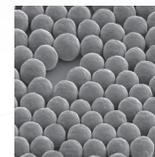
2010s

2010s

持続的成長を目指して

2020年のありたい姿を目指して3段階の中期経営計画をスタート。2011年開始の3カ年計画「JSR20i3[®]」では、石油化学系事業とファイン事業で差別化を進めつつ、戦略事業としてメディカル材料(ライフサイエンス)や環境・エネルギー分野に投資・育成。

グローバル化の進展



2014

成長に結びつける

2014年から3カ年の中期経営計画「JSR20i6[®]」では、「JSR20i3[®]」で事業課題に取り組んだ成果をもとに、高機能タイヤ用溶液重合SBR(SSBR、エラストマー事業)・半導体材料事業・ディスプレイ材料事業のグローバル化を進展させた。また、ライフサイエンス事業を石油化学系事業、ファイン事業に次ぐ新たな事業の柱と位置付けた。

2014

持続的成長

2017

2017

未来に向けた競争力強化

2017年4月から開始した中期経営計画「JSR20i9[®]」では、SSBR・半導体材料事業・ライフサイエンス事業を成長ドライバーと位置付け、収益拡大を推進した。また、デジタルイノベーションへの対応を通じた労働生産性向上にも取り組み、競争力の強化を図った。

2020s

持続的な成長へ

中長期的な環境の変化に対応するため、レジリエントな組織を構築し、サステナブルな成長を目指し、すべてのステークホルダーに価値を提供する。

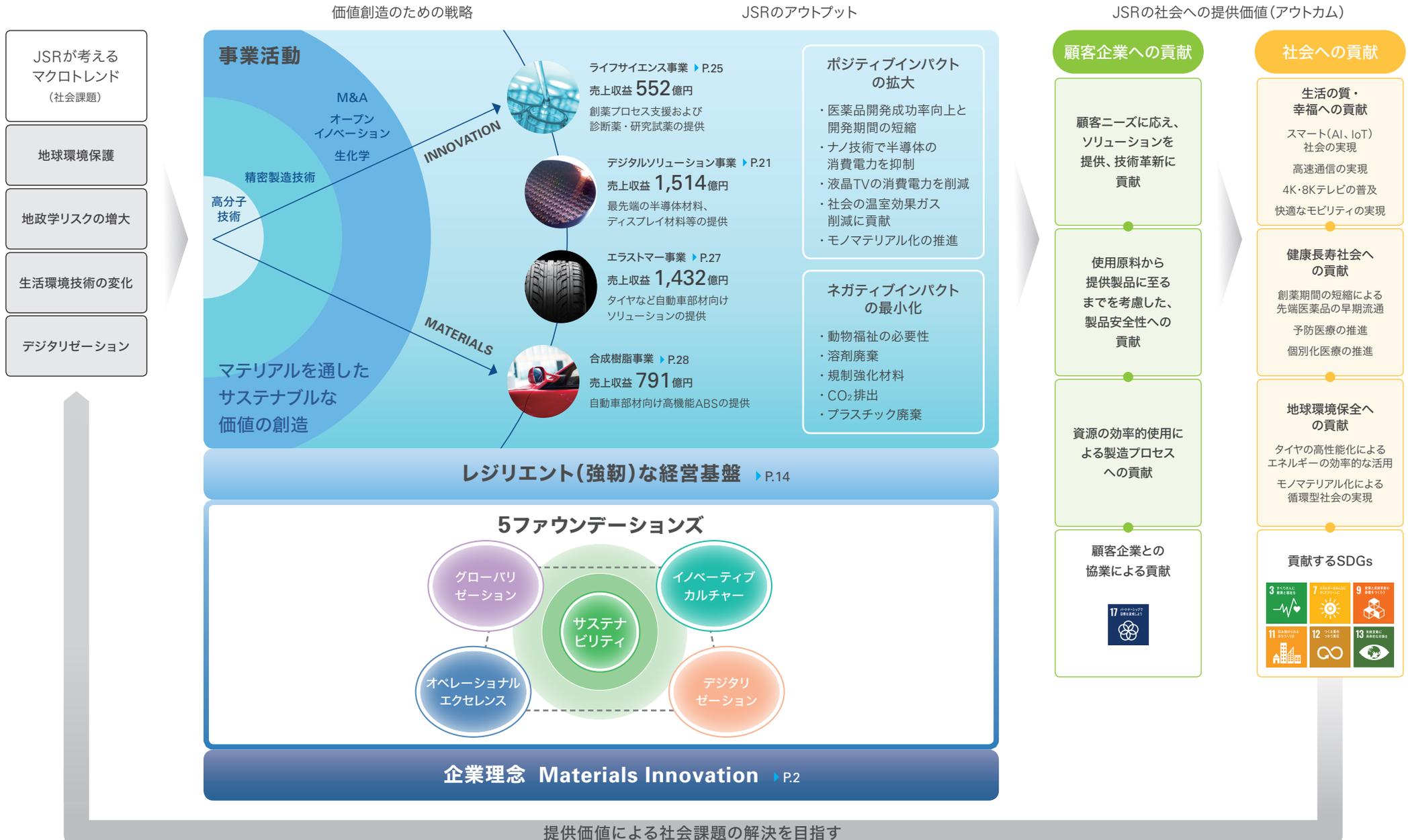
2020s

変化に適応する強靱な組織構築



※「JSR20i3」(ジェイエスアールにせんじゅうさん)、「JSR20i6」(ジェイエスアールにせんじゅうろく)、「JSR20i9」(ジェイエスアールにせんじゅうきゅう)は、企業理念であるMaterials Innovationを実行すべく、innovationを強調して「i」を使用して表記しています。

価値創造のプロセス



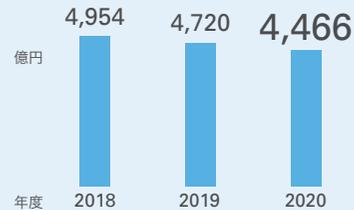
2020年度 財務非財務ハイライト

財務情報

財務資本

売上収益

合計



海外



営業利益(営業利益率)

△ **616** 億円
(△13.8%)

親会社の所有者に帰属する当期利益

△ **552** 億円

設備投資額

537 億円

ROE

△ **15.1** %

非財務情報

人的・知的資本

従業員数(グループ連結)

9,278 人 (2021年3月末)

研究開発費

246 億円

〈女性管理職比率〉

4.1 %
(JSR単体、2020年4月1日時点)

〈障がい者雇用率〉

2.34 %
(JSR単体、2021年3月31日時点)

※ グループ全体、仕入品に係る受託研究費を含む

保有特許件数

6,141 件

労働災害発生件数

JSR株式会社 **1** (0)
 JSR株式会社協力会社員 **2** (1)
 国内グループ企業 **1** (2)
 国内グループ企業協力会社員 **1** (2)

※ カッコ内は不休業災害

社会・関係資本

グローバルネットワーク

国内[※] **30** 拠点
 海外 **43** 拠点

※ JSR本社、主要製造施設・研究施設および22のグループ会社を含む
 ※ 2021年7月31日時点

自然資本

温室効果ガス排出量

892
千トン-CO₂

※ JSR株式会社、国内グループ企業、海外グループ企業
 合計値、Scope1 + Scope2

エネルギー使用量

原単位 **0.42**
kL/トン

※ JSR株式会社のみの数値、国内グループ企業は0.20、海外グループ企業は0.56

※ 2017年度から、会社計算規則第120条第1項の規則により国際会計基準(IFRS)に準拠して連結計算書類を作成しています。